

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

「緯書と漢代経書学国際」シンポジウム

2. 主宰責任者氏名

伊藤 裕水（近畿大学非常勤講師）

3. 開催日時等およびプログラム（講演者名または報告者名を明記してください）

12/14	司会	発表者	論題
10:30 ~ 10:45	伊藤裕水（近畿大学）	開幕式	
		武田時昌 開会のことば	
10:45 ~ 11:25		武田時昌（京都大学）	緯書研究の新展開
11:25 ~ 12:05		王遜（揚州大学）	《文心雕龍・正緯》篇讀札
12:05 ~ 12:20		討論	
昼休憩			
13:45 ~ 14:25	高橋あやの（大東文化大学）	宮崎愛梨（Kaikorium ~ 懐古空間~）	深衣の復原—軟侯夫人と『礼記』疏
14:25 ~ 15:05		徐興無（南京大学）	回到孔子和《春秋》：西漢末年讖緯思潮的興起
15:05 ~ 15:45		馮錦榮（香港大学）	東漢經學家星曆研究：以賈逵、張衡和蔡邕為中心
15:45 ~ 16:05		討論	
休憩			
16:20 ~ 17:00	名和敏光（山梨県立大学）	末永高康（広島大学）	緯書における礼経の完備化について
17:00 ~ 17:40		鄭宰相（圓光デジタル大専校）	擲錢法の四象判別
17:40 ~ 18:00		討論	
12/15	司会	発表者	論題
13:15 ~ 13:55	清水浩子（大正大学）	伊藤裕水（近畿大学）	《尚書考靈耀》の四遊と《尚書》經文
13:55 ~ 14:35		孫英剛（浙江大學）	梁武帝的大業

14:35 ~ 14:50		討論	
	休憩		
15:00 ~ 15:40	大形徹（大阪府立大学）	朱岩（揚州大学）	緯書的文體特徴
15:40 ~ 16:20		藤田衛（広島大学）	『周易命期略秘伝』初探—『易緯』研究における資料的価値
16:20 ~ 17:00		童嶺（南京大学）	六朝初期的《郷飲酒禮》：基於皇權與士族關係的考察
17:00 ~ 17:20		討論	
	休憩		
17:30 ~ 18:30	徐興無（南京大学） 伊藤裕水（近畿大学）	総合討論 「緯書学と經書学 中国思想の基層構造」 閉幕式 武田時昌 閉会の言葉	

4. 概要（400字程度）

今回のシンポジウムは12月14・15日に京都大学人文科学研究所本館大会議室で開催し、中国を中心として緯書ないし經学研究者を招聘した。国外からは中華人民共和国揚州大学朱岩教授・王遜教授、南京大学徐興無教授・同童嶺教授、浙江大学孫英剛教授、韓国から円光デジタル大学鄭宰相准教授・香港からは香港大学馮錦榮教授が、また国内からは、広島大学末永高康教授・同藤田衛助手が発表者として参加した。徐興無氏が現在の緯書研究における泰斗であるほか、発表者の専門領域は經学という範疇を越えて、科学史や言語学などの多方面にわたる。また、またコメンテーターとして、日本における緯書学第一人者の中村璋八氏の弟子である清水浩子氏や、張衡研究で最前線を走る高橋あやの氏などの研究者を招聘した。

5. 参加者（別紙「参加状況」も記載してください。）

学外

洲脇武志（愛知県立大学准教授）、田中良明（大東文化大学准教授）、石井行雄（北海道教育大学教授）、村田みお（近畿大学准教授）など

学内

池田秀三（文学研究科名誉教授）、池田恭哉（文学研究科准教授）など

所内

高井たかね、宮紀子

6. 助成金の使途等

総合討論を中心とするシンポジウム検討資料として使用

7. その他（成果や今後の展開等、自由に記載してください）

従来、緯書学として研究されてきた緯書について、指摘はされるもののあまり研究されてこなかった經書との関係を中心の議題にして行ったシンポジウムであるが、經書と緯書との関係というテーマをはるかに越えて、科学史・文体学・仏教史という広範な範囲の議論を行うことができた。こ

これらの議論はこれまでの緯書学から範囲を格段に拡充するもので、緯書研究の将来的展開について、重要な基礎となる可能性がある。

また、その内容の充実を示す例として、シンポジウム資料の充実を挙げておきたい。発表者は平均して10ページを超える資料を準備していただき、20ページを超えるような発表資料を準備していただいた発表者も複数人いた。そのような非常に豊かな発表資料と、本助成金による検討資料によって、非常に豊かな土壌の上に討論を加えることができた。

参加者については、別紙の通りであるが、別紙の参加者数をはるかに超える分量の配布資料が持ち帰られており、あるいは参加者名簿に記名せずに参加された方がいる模様である。また、別用で来られなかったかたの分も、合わせて持ち帰られた方もいるようである。

また、今回のシンポジウムの内容について、参会者から出版を望む声が多くあり、現在出版に向けて計画を練っているところである。

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内（法人内）	3	14 (7)	6 (4)	()	3 (3)	()	19 (10)	7 (5)	()	6 (6)	4 (4)
国立大学	4	5 ()	1 ()	()	2 ()	()	7 ()	1 (1)	()	3 ()	()
公立大学	3	8 (4)	1 (1)	()	2 (2)	()	11 (5)	2 (2)	()	2 (2)	2 (2)
私立大学	12	13 (7)	2 (1)	()	4 (3)	()	20 (10)	3 (1)	()	6 (4)	1 (1)
大学共同利用機関法人	1	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()
独立行政法人等公的研究機関	1	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()
民間機関	9	9 (6)	1 (1)	()	1 (1)	()	10 (6)	1 (1)	()	()	()
外国機関	6	9 (1)	9 (1)	()	()	()	18 (2)	18 (2)	()	1 (1)	()
その他		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
計	39	59 (25)	20 (7)	()	12 (9)	()	87 (33)	32 (12)	()	18 (13)	7 (7)

※（ ）内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者（40歳未満）、若手研究者（35歳以下）、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に（ ）で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した：受入人数2人、延べ人数6人